

園だより



令和8年1月1日

社会福祉法人新田保育園

園長 大西 陽子

子どもには本物を 良き文化を

タイトルは、新田保育園の創始者曾根綾子が残した言葉で、私の大好きな言葉です。12月は卒園保護者でプロドラマーの高木将雄氏とプロマリンバ奏者のライブを開催しました。保育の中で、文化に触れ、体験から五感を育むということに、新田保育園では重きを置いております。なぜなら、感性の基礎は、乳幼児期での体験と、周囲の人々との気持ちの共有で育まれます。感性は後戻りして付け足すことができない、その人の根幹となる力です。文字、計算を学習する前に、その人の根幹を育むのが、乳幼児期の教育機関としての責任だと考えているため、文化には予算をかけます。

新年から予算の話とは、無粋な気もしますが、給食費（食材実費）保育材料費（おもちゃ、合宿費用、公演料、遠足バス、チャボ金魚亀の餌、畑の苗等）消耗器具備品費（食器、消毒薬等）子どもたちの為に使用する予算は、物価高騰に沿って予算を増額しました。やりくりは厳しいですが、子どもたちの文化に関わる支出は、ケチになってはならないのです。目には見えないですが、人間の基礎根幹を育てているのです。文化の一つを例に挙げると、給食で使用する食器は、瀬戸物です。これは、創始者が昭和30代にまだ給食食器がアルミだった時代から先駆けて本物にこだわり、瀬戸物の食器を日本のおそらく最先端で保育園として特注したことから始まっています。当時の新田保育園は、豊かどころか経営難の中での話です。令和の今も瀬戸物は割れますので、毎年割れた分は購入します。年度によりますが、5~20万円程度費用としてかかります。割れない食器だと、こんなに費用はかかりません。しかし、食器が割れることにより、「大切に取扱いおうとする心」「そっと置く力加減の習得による、手先、腕の筋肉神経の発達」が促されます。よって、この予算は必要経費と考えます。これはこだわっていることの一例で、挙げ始めるとキリがありません。そして職員には「高くても子どもたちにとって良いものを選ぶ目を養ってほしい」と思っています。

子どもには本物を 良き文化を 新春大発表！！

2月16日（月）16:00~令和6年7月にグランドピアノを寄贈して下さったドイツ在住ピアニスト小林由佳氏が、新田保育園にて無償で公演を行ってくださいます。寄贈の間に入って下さったピアノ講師鳥倉氏との連弾も予定されています。0歳児クラスから年長まで、参加します。またとない機会ですので、保護者の方も1家庭1名様に限り入場可能で会場設営します。

（小学2年生までの兄妹同伴可能）16時にお迎えに来られる方は、ぜひご参加ください。後日、会場設営の関係上、参加される方はGoogleフォームにてお申込みをお願いします。

さらに今年の親子観劇「はるまつり」は2月28日（土）午前中開催です。今年は民族歌舞団荒馬座の公演です。年長が叩く「ぶち合わせ太鼓」のプロを体験しましょう。すごい迫力なのですよ。親子観劇は1名の子どもに対し1名の保護者が参加です。親子観劇も昭和30年代から続けてきた行事で、当時は隅田川に橋がなく渡し舟で北区側に渡らねばならず、新田から文化を体験するのは一苦労だったようです。それなら、プロを保育園に呼んでしまおう！という発想で現在に続いている行事です。こちらは年間スケジュールで提示している行事ですので、ご参加ください。



スマホの普及により、好きな文化を個で楽しむことができる時代になりました。しかし、文化を仲間や親子で共通体験することにより、対話、共感が生まれます。親子で「よかったね」「楽しかったね」という共通の体験をおこなうことで、子どもの心に生涯残るあたたかい記憶になります。乳幼児期の本物の体験は、生涯の価値観、記憶の土台になります。私たち大人が先に死んだあと、音楽、芸術、文学、仲間は子どもの人生の危機を救い、豊かにしていくことでしょう。教育の成果は、「字が書けた」「計算ができた」という短期的な達成ではなく、子が生涯にわたりどんな人生を送るかということです。私たち大人は、子どもにとって何が本物で、何が文化なのか、何をこの子らに託すのか、日々試されているのです。

令和8年も「子どもには本物を 良き文化を」を実践する新田保育園をよろしく願いいたします。